

松浦佐用媛石魂

初集卷之

13  
3240  
4



へ13  
3240  
4

In general, Japanese  
men stop, take books  
and women if you only  
read it; while it  
is the most robust of all  
the...

Therefore, in a  
judge & gentlemen send it  
apart...  
and it should be  
a great deal...

昭和十一年七月九日

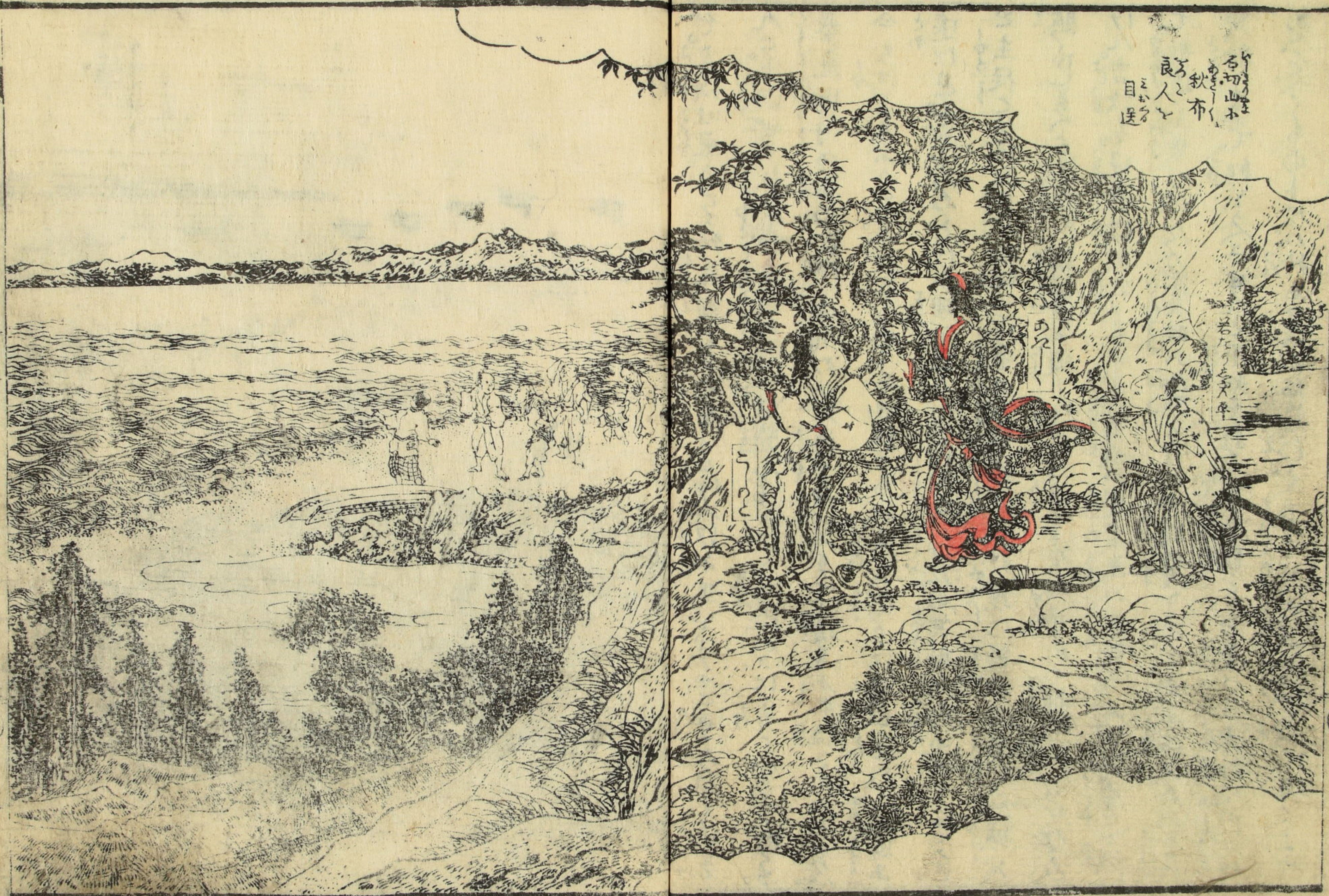
大木伊

島

これ小入日と共小西の海に玉にのりんと馳走れば主に後世に馬飼戦持  
巻に小舟膳前跡に跟て追たりけれ秋存の...  
いひ果を...  
夫の船出...  
ていふ...  
明...  
石切山へ走り...  
花の香...  
浦...  
速く...  
寄せて...  
鷓鴣の...  
稀...  
実政の...

只今 魂が解れと云えて三鱗の旗濱風に翻じし弓矢打物飾立たる大  
 船は九艘掉の歌を唄ひひれ遙小岸を離るればこれを云とて老弱男女  
 此の磯に集合たり名切山あり秋布が又見よ此方の眼もくはふも夫は彼  
 船の取とて指せどそれどとはあるはしも好くはし兼後とるるや嗚呼  
 公のくはとて主従眉根が鬘れ折しも裁許橋の東に延命寺の森の  
 蔭より鎖とれ武者一騎忽然と走り出濱方へ馬が馳され敗容指物に  
 又鐘の威毛さんどとて定うにハッスえさう杯天暗雄は武者熊はばう  
 へくもわぬこの人あり秋布はこれかえてはては後れ多ひあれたらにせし  
 とて主従手に汗握りけりともあはれし吉次は主君小辞別がやとて執  
 燈の籠へありて時宗朝臣に拜竭し直小退かす馬と走りし由比が濱に  
 身をたればとひの外小の後れく船は既小岸に離れ大洋遙に漕ゆくに

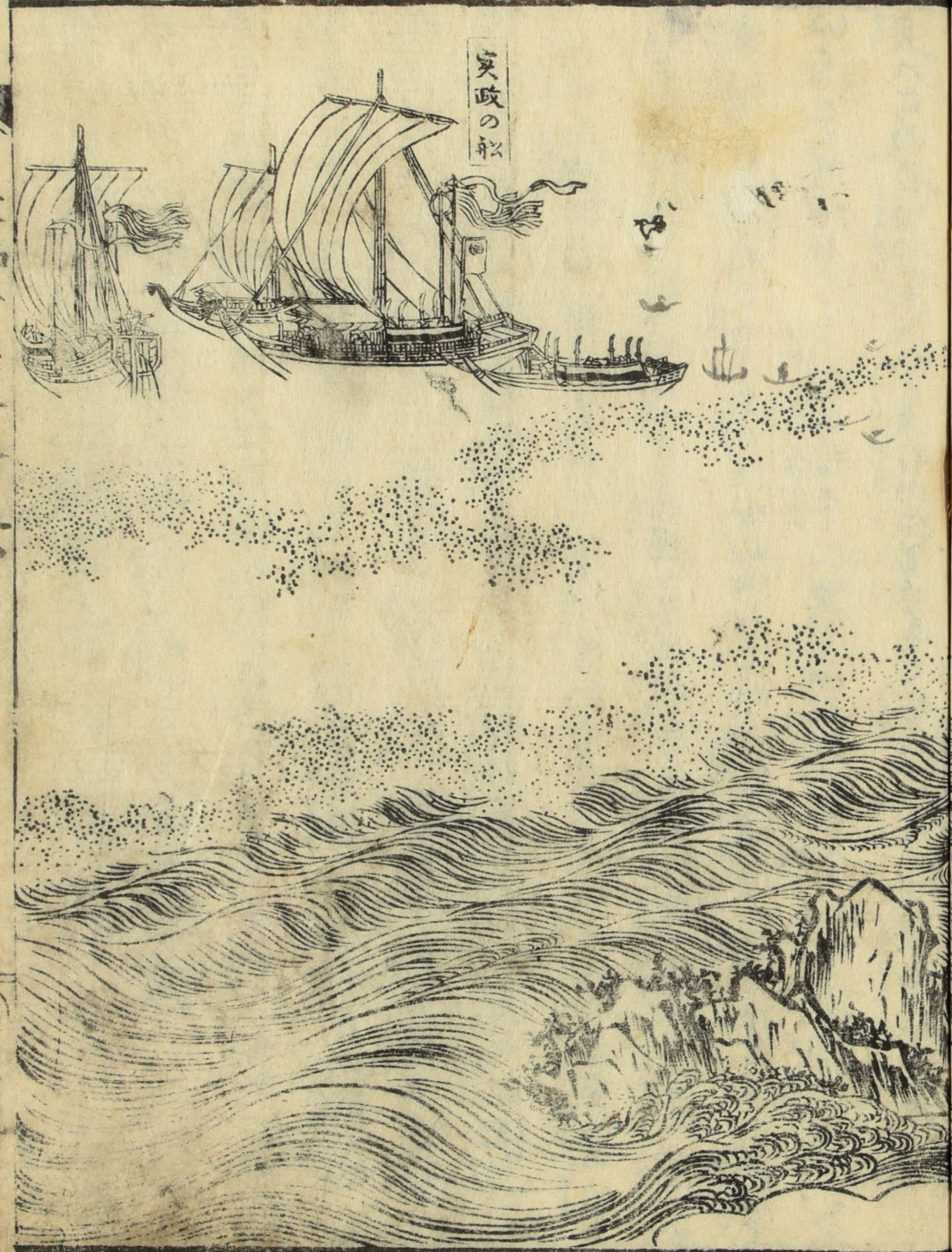
ぞ吉次吐嗟とら海魚爆とら朽やとゆひ小馬とさふと乗入れて追急  
 んどを洩せられ秋布主従はこの形勢あはれもく防みいくに勇くおろそ  
 暴虎馮河の悔めれば浪風のうね海上にやせう追多の押流されやとる  
 今も沈こまふとてそれれものどでり流るるに声は限りにはひ留れど同達  
 遠くはとどろめをいふ理ありかれ耐ふ神仏の冥助が仰ふとて  
 と主従く流れむとらゆして春日八幡住吉四社鏡の神社も曇りた誠が  
 照つじ多くとてまじし丹精を凝しけ又海つゝ波跳るれハ神や守らせたま  
 けん吉次も逆巻浪が物ともせど騎人の達者馬の逸物人馬と力と戦  
 て船近く乗つたりなり実政の嚮よりこの形勢をえて大不防もあれ  
 大助よとて船と入らせんと下知されぬ軍兵夥ら乗らる大船を遠く  
 かくさへくもあはぬは終あはらふはしむと昔く可惜壯夫と殺とてく



石切山  
秋布  
良人  
目送

大木言集卷之中

大木言集卷之中



英政の船



世川らね

船小後れて  
吉次大洋と  
~~~~~

大和言集卷六

吟をくね不吉次亭にて乗著し。ひびく。飲ひ。たて。人馬。も。し。秋。の。月。  
 じし信ずりに勅れハ吉次ハ執槍へ身の暇取し。世間。其。外。後。は。た。し。  
 其。速。れ。ハ。実。政。せ。て。あ。か。は。其。許。の。懈。は。あ。め。の。目。今。の。為。体。ハ。え。れ。  
 盛。綱。ハ。藤。戸。ハ。渡。世。に。勝。れ。り。船。出。ハ。この。黄。昏。過。お。と。定。ま。れ。ふ。潮。と。風。の。  
 便宜。の。れ。ば。久。く。村。の。り。と。れ。と。ハ。好。び。り。と。ハ。り。て。と。後。の。舟。に。大。お。其。許。  
 大。洋。と。渡。世。ハ。稱。ぶ。よ。め。た。て。お。の。か。家。路。不。立。久。ま。ば。吉。次。ハ。後。卒。お。ハ。海。と。  
 渡。さ。に。は。し。る。れ。ハ。陸。地。より。西。國。へ。赴。た。秋。布。主。從。ハ。石。切。山。より。吉。次。ハ。船。お。  
 乗。り。え。と。れ。ハ。え。て。や。う。やく。に。お。あ。ら。わ。れ。ど。船。ハ。深。さ。く。お。り。ゆ。く。あ。と。秋。布。  
 へ。と。の。石。切。山。を。望。夫。石。の。ほ。ろ。り。み。て。せ。れ。良。人。ハ。又。松。浦。お。る。渡。の。神。社。  
 の。祈。子。お。り。と。ぞ。は。れ。ハ。あ。や。今。宵。の。景。迹。と。唐。山。の。望。夫。石。ハ。國。の。領。中。毫。山。  
 の。傍。お。似。て。う。が。悲。し。い。海。へ。の。松。浦。佐。用。殿。お。も。勝。れ。は。し。會。者。定。離。と。ハ。  
 の。ひ。る。か。ら。會。と。か。と。別。る。に。易。た。ら。う。せ。り。け。と。と。て。声。ハ。惜。ま。れ。あ。  
 と。泣。が。俊。平。と。れ。を。慰。め。て。さ。あ。く。に。い。ひ。に。し。ら。や。が。て。麓。へ。さ。り。け。れ。

第七

海濱に書紙失ひ書をばり

秋。布。ハ。夫。吉。次。ハ。西。國。へ。赴。た。て。より。既。お。五。六。十。日。と。経。た。れ。ど。も。と。え。て。一。度。も。  
 音。耗。ら。ず。と。も。や。半。夜。と。か。も。い。も。寝。ら。れ。ど。ほ。ど。後。ま。の。曉。  
 に。入。る。月。が。さ。め。て。の。鎮。西。の。か。さ。つ。り。と。は。く。と。孤。燈。に。對。ひ。て。は。こ。が。影。  
 お。く。て。友。も。多。く。只。管。お。る。ひ。は。そ。り。か。父。の。涙。は。即。と。れ。え。て。い。と。く。海。の。と。  
 か。く。お。ほ。え。毎。日。に。若。黨。園。義。七。ハ。つ。ら。して。その。安。否。ハ。同。せ。り。の。義。七。と。  
 秋。布。が。如。し。と。よ。り。守。傳。え。と。れ。の。な。れ。ハ。俊。平。よ。り。は。こ。ろ。は。あ。く。と。

かろ。秋布ハ彼がすまね毎に夫のすのこいひ物と。不覺ハ落涙をうりければ。  
 簀七ハその中ハ推量で。かくほでにおりひくしむひて。不意のふりぬいふ  
 せん。僕潜ハ父上よけえぬ。近々に西國へ赴く。消息もんは。豫て。写め  
 ちれた。信をうて。秋布斜まふ。致ひて。それ。彼地は。此  
 て。面をうり。夫の安否を。宣ふ。これ。ふも。公。かり。おぼ。父の。氣。よ。し。  
 折と。窺ひ。し。に。ら。て。な。と。い。ふ。に。簀七ハ。後。好。果。て。立。か。つ。り。その。夕  
 主君。源。氏。郎。小。件。の。ゆ。か。吉。お。け。し。は。弥。郎。も。は。す。ぐ。に。恩。愛。の。ち。か。か。さ。く。  
 め。り。に。女。見。が。お。ひ。は。そ。り。て。長。は。病。息。お。卧。り。や。す。れ。と。て。公。安。か。う。ざ。れ。折  
 しの。今。簀七ハ。西國へ。行人。とい。ふ。と。す。て。鶴。お。飲。び。松。お。戦。場。へ。消。息。と。し  
 と。や。それ。そ。り。て。許。さ。し。り。海。を。も。ろ。ろ。と。て。行。人。と。お。ぼ。れ。の。ち。さ。ら。に  
 か。は。て。の。ち。と。回。答。し。か。は。簀七。要。て。その。夜。又。瀬。川。が。宿。所。お。赴。た。秋。布。に

書簡同

源氏郎のいひこと。か。け。え。ま。し。し。か。れ。の。翌。々。は。と。り。て。旅。を。し。り。書。簡。同。  
 写。め。お。た。ま。ふ。目。今。違。と。ま。し。と。い。ふ。に。秋。布。大。に。致。ひ。て。藤。て。使。め。ん。と。い。ふ  
 と。て。毎。夜。に。も。つ。つ。織。り。錦。一。巻。と。十。尋。お。も。の。り。れ。へ。く。す。ゆ。書。簡。同。一。封  
 と。り。出。し。又。は。ほ。ろ。ろ。と。お。ぼ。れ。の。ち。叮。嚀。に。し。ひ。ま。し。し。又。一。封。の。令。と。一。巻。の。丸  
 葉。を。と。り。出。して。これ。ハ。簀七。小。錢。別。と。お。ぼ。し。今。ゆ。て。り。の。程。お。ゆ。り。お。ぼ。れ  
 と。同。ハ。簀七。お。ぼ。し。傳。へ。く。今。茲。も。る。は。四。五。十。日。ハ。あ。れ。と。路。違。な。れ。ば。年。の。内。お  
 と。ま。え。つ。ら。し。正。月。の。上。旬。お。か。ら。ゆ。り。ゆ。り。と。回。答。と。し。書。簡。と。錦。紙。受  
 め。の。金。と。さ。あ。ら。あ。り。て。懸。て。宿。所。お。走。り。か。つ。り。俄。頃。お。行。装。お。整。つ。八。声。の  
 鶏。の。鳴。き。も。に。西。次。に。て。立。出。ぬ。と。に。又。嵐。川。嘉。二。郎。武。行。長。城。野。兵。不  
 敦。宗。ハ。去。年。の。冬。鎌。倉。へ。追。放。且。些。の。財。祿。と。命。綱。は。て。伊。豆。の。山。中。お。躲  
 せ。住。ま。嘉。二。郎。が。奴。隸。勘。八。次。と。り。く。潜。中。に。鎌。倉。へ。遣。し。事。の。お。件。と。窺

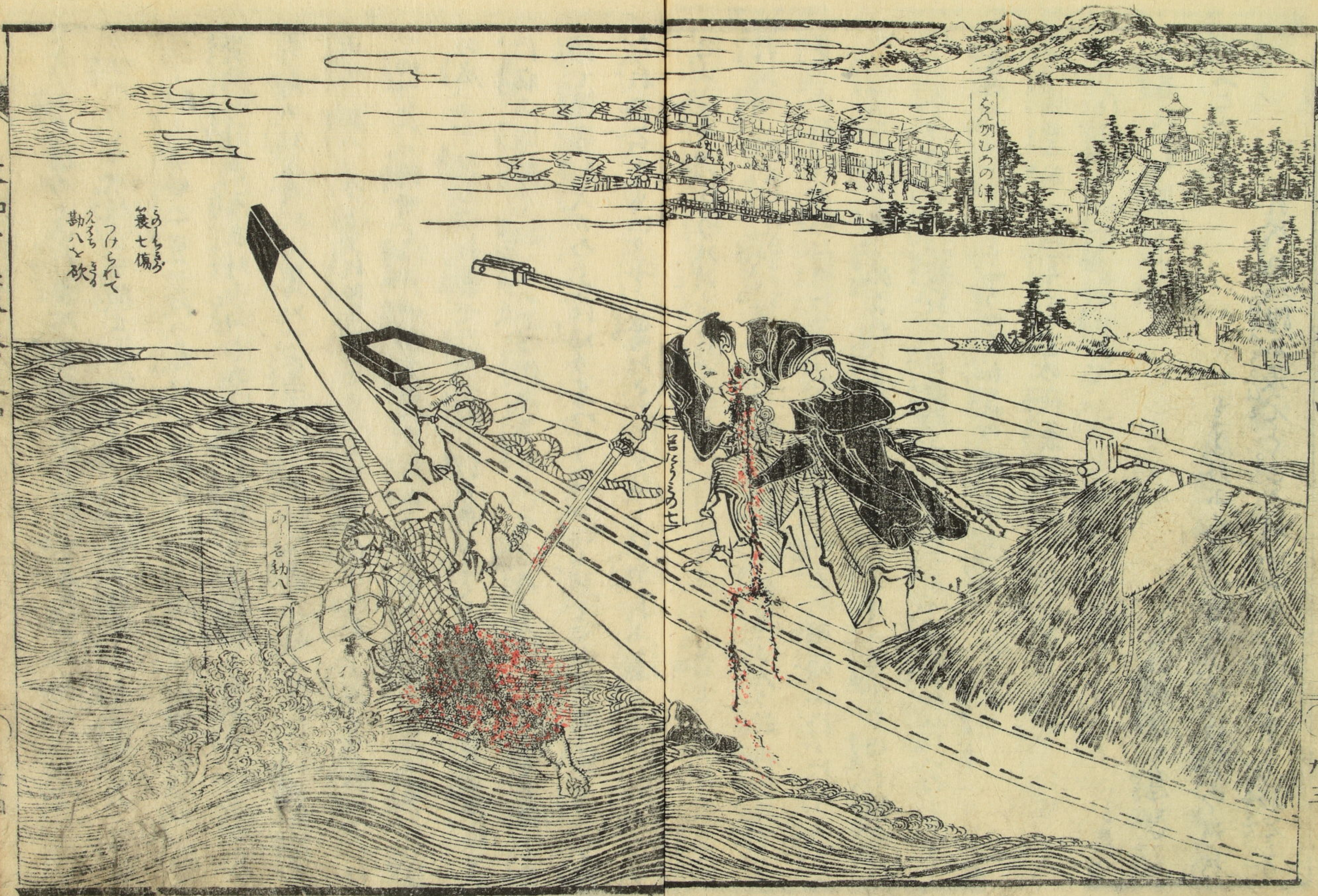
せ。瀬川采女が秋布衣娶にす。又今度実政お後ひて彼人西國へ赴たれ  
 せ。はけりて嘉二郎のいよ。相くもいふ。いふもして瀬川博多の両家お  
 定して。その怨復さん。頻に兵太と談合さうりけお。あま日勤八慌しく  
 走りぬりて秋布衣日耳夫のりかお。となり。あまのあま。潜お博多の家隸  
 刺衰七を使して。肥前國へ遣さにより。衰七の昨の境方に鎌倉を發足  
 せし。は。遣おすてい。と告れ。と兵太は。け。とす。て嘉二郎とえ。り。は。し。その  
 途中にて。衰七が。ち。殺し。秋布衣書簡を奪ひ。そ。は。瀬川博多。自滅さ  
 せん。謀。これ。成。り。て。行。め。で。あ。れ。も。彼。衰。七。ハ。武。藝。も。達。人。ハ。勝。れ。る。健  
 足。あり。と。す。く。後。勤。八。が。り。て。追。ま。れ。も。為。裸。せん。お。ぼ。つ。は。し。と。い。も。と。あ  
 っ。さ。れ。お。勤。八。大。小。焦。燥。く。い。う。あ。れ。ハ。他。の。家。隸。の。と。成。構。て。勤。八。が。か。く。入。陣  
 あり。と。衰。七。勇。し。と。い。や。も。立。面。六。臂。と。あ。ら。び。話。と。ゆ。く。に。速。く。こ。こ。に。二。翼。四  
 足。あり。と。僕。か。ら。い。び。め。裸。さ。し。は。し。計。わ。か。ら。し。ま。と。い。き。ゆ。く。に。そ。共。大。微  
 笑。て。い。へ。あ。も。兵。ハ。流。道。あり。と。い。り。俗。所。謂。誑。と。に。よ。は。し。叙。わ。く。は。何  
 地。も。い。と。跟。ゆ。き。を。彼。お。ち。ま。れ。る。み。な。れ。と。執。示。ま。に。嘉。二。郎。の。同。答。ハ  
 少。く。す。と。お。飲。び。や。が。て。勤。八。お。些。の。路。費。取。ら。し。り。成就。せ。賞。賚。ハ。此  
 十。倍。と。い。は。し。と。い。ふ。その。と。た。勤。八。の。件。の。銀。取。給。り。ん。と。僕。今。此。大  
 事。成。業。した。か。む。り。れ。路。費。を。ま。り。て。は。あ。ま。り。に。奉。意。さ。し。り。成就。せ。ハ  
 如此。い。れ。賞。禄。を。ま。り。と。い。ふ。お。形。あり。と。も。あ。ら。う。と。や。と。喧。け。ハ。嘉。二。郎。が  
 下。冷。笑。ひ。それ。か。く。流。浪。の。身。と。お。れ。ハ。汝。が。防。む。も。理。あり。は。ら。ば。は。形。次。つ。か  
 せん。と。硯。引。は。し。と。ら。く。と。書。寫。り。て。ま。り。れ。ハ。勤。八。と。れ。ハ。受。り。て。只。一。足。も  
 と。や。衰。七。お。追。ま。ん。と。衰。引。折。豆。が。ふ。か。し。麓。の。か。へ。走。り。ま。り。ぬ。え。耳  
 この。主。後。も。慾。の。一。字。お。他。を。傷。り。自。己。妻。を。こ。こ。も。厭。ざ。れ。癖。者。の。れ。ハ

九折言集卷之十

十一



勤八を主疑ひく。多敷を乞。嘉二郎と家謙ふも悔く。又恥せせど。  
 歩はしりし行状あり。かくとも。やぶ。養七ハ秋布が夫へ贈れ。書簡と錦と。幾  
 重ともなく。油紙を裹く。肩あひけ。その曉方。小澤倉と起程して。只顧。路  
 をし。た。日。教。預。く。播磨路。まで。まに。たり。その。と。れ。養七。お。か。や。う。か。路。が。  
 ゆく。まは。人。さ。と。小。勝。と。れ。ど。の。と。路。の。追。風。あ。て。船。路。より。行。バ。只。一。瞬。ふ  
 ち。く。彼。地。へ。多。き。し。ち。う。せん。お。や。と。む。り。の。ご。ら。室。の。津。小。到。り。て。肥。前。の。松。浦。の。  
 船。や。あ。れ。や。同。ふ。紅。人。答。へ。く。聖。の。彼。誰。時。ふ。お。れ。船。の。松。浦。へ。ゆ。く。あり。  
 う。お。は。と。や。暮。れ。に。近。し。し。便。船。を。し。ま。ら。船。あ。て。天。の。羽。を。て。行。く。ま。  
 り。の。養七。や。て。た。れ。小。飲。び。や。て。その。船。小。乗。り。て。夕。餐。た。ら。へ。ま。ど。ま。れ。小。日。ハ  
 既。小。暮。つ。衆。合。の。旅。客。ホ。と。室。の。柱。君。が。夜。の。粧。扮。や。え。んと。て。陸。小。上。り。ぬ。  
 元。耳。賊。が。積。船。あ。ら。ね。ハ。紅。人。お。も。甲。夜。の。経。小。御。よ。ゆ。て。酒。り。を。い。ん  
 と。く。養七。い。り。又。残。し。お。れ。て。船。あ。は。の。い。る。り。う。養七。ハ。只。お。り。る。漏  
 月。又。瞻。お。れ。ふ。と。ら。は。浪。と。文字。な。く。て。繪。嶋。松。島。と。ん。鞆。掛。の。嶋。と。も。  
 葦。子。歌。徒。ふ。似。たり。け。て。丁。ぶ。く。の。津。と。明。石。の。瀬。邊。ふ。け。た。く。こ。よ。な  
 け。眺。望。な。れ。ど。急。に。旅。あ。れ。ハ。それ。小。な。も。と。あ。と。月。へ。冷。ぶ。く。牙。と。浦。風。れ  
 い。と。寒。く。れ。ハ。昔。引。被。た。て。目。睡。ぬ。ま。も。嘉。二。郎。が。奴。隸。幼。ハ。い。わ。る。日。より  
 養七。が。跡。を。追。う。く。や。う。中。和。泉。の。塚。あ。て。追。う。と。れ。ど。その。便。宜。が。お。れ。ハ。  
 る。は。播。磨。路。小。跟。ま。り。この。夜。養七。が。船。に。お。る。が。え。く。太。く。に。慌。ふ。既  
 小。に。及。び。今。宵。は。下。さ。ぶ。と。彼。を。遂。小。討。り。し。途。し。と。て。甲。夜。に。賊。の  
 旅。客。に。ら。ら。雜。す。く。彼。お。小。舞。り。松。笠。の。圍。に。お。に。餘。居。て。息。も。せ。と。  
 園。ふ。と。中。夕。危。れ。哉。養七。も。外。小。人。あり。も。あ。ら。げ。り。け。れ。ハ。お。れ。ハ。  
 放。して。目。睡。れ。ハ。お。八。溜。小。張。ん。と。と。六。時。ふ。ハ。今。な。り。と。て。や。と。ふ。船。笠。さ。り



あつちが  
兼七傷  
つけられて  
えんち  
勘八と  
砍

印  
名  
勘  
八

らん  
加  
し  
の  
津

大  
和  
言  
葉  
巻  
之  
中

九  
三

とひ出。ほぐその行表が奪ひとつてこれ、脊負ひまづろふ刀と引抜く。衰七  
 が吭のめりや板子も徹しとごとと刺は衰七忽地致うれえ吐嗟とかかちた  
 るがら。えよ騒ね男がれへ息終くれかりらして。その及にむつたれハ幸はして  
 灸所を外し刃方外小向くあれハ丁と反切く身が起し矢度小刀を棄るんこ  
 とそれハ勃ハ大死小驚れて。棄れしと争ひしが遂不敵がとけれハ刃が捨く  
 水中へ跳入んととそれ知と衰七その刀が取て閃く。勃ハが腸より。乳の下かけ  
 て切つられハ阿呀と一声叫びも更ぞ鮮血と噴りま逆さまに陥りく浪  
 の底あぞ沈つけれ衰七の既不敵と討とめなして。その身も大事の汚穢され  
 は猛小瞑眩く。船底の上倒し忽然として息終らう。はれ移ふその夜を更  
 園て。旅客紅入りりもにゆりまつとこれハ船小残まされ旅客が血塗れて卧  
 たれへ。そのもいっあ驚えと。さへに勦れハ氣息とじかすハやう

形は。さうていし。さう切れと。て時が移さ。と醫師を招えは。内射の療治  
 して。船場してりのとそれハ。やうに救う。身が好り。紅人ホとの形勢。成して。か  
 れハ。この人を船に乗して西國へ載る。かゝるひ。さして。衰七を紅長が家。お扛  
 りて。ゆえ。く保養。し。その夜の中に。船を。はひ。浄め。な。して。結朝。纒。を。解。う  
 と。ど。か。つて。衰七の。紅長の。家。お。あり。て。療治。が。加。つ。に。主人。の。情。め。れ。の。あ。う。  
 十。日。の。身。り。が。強。く。瘡。は。と。と。し。愈。に。け。し。と。い。ま。起。居。ハ。自。在。か。つ。た。に。寔。お  
 主人。が。情。あ。う。絶。び。んと。せ。玉。緒。と。繋。だ。と。め。られ。ハ。衰。七。ハ。ぬ。く。その。底。が  
 飲。ひ。や。え。と。じ。り。て。う。か。な。な。な。な。の。路。浪。の。守。を。さ。く。人。は。賜。り。て。ま。お。割。れ。價  
 と。し。て。い。ふ。や。う。彼。夜。さ。り。船。の。中。に。う。か。行。表。の。あ。り。け。ん。の。内。あ。れ。西。が  
 へ。と。ら。れ。書。状。も。あり。咽喉。を。傷。ま。して。目。く。り。の。べ。い。い。と。ら。ふ。と。後。あ。た。は。ひ

みづら。は同ざりし預りおたせらる。こゝろと違ふあひねといふに主人点頭く。  
けお彼行表のゆか忘れり。ばくが進みとてといひひて納戸より一ッれ。紙  
包を引提する。足なげべし。よく展見く受とりあへといへる。兼七ん。目  
根と頻め。こゝ似たれいも。うが物にゆらびとりあふ主人も又不審。この夜  
船と洗とれとて乗あせし旅客の行李ごもひ悉く展見くれ。いひて捨物  
とおぼしむ。この対よまうりしといふ兼七ん。いひ怪と。その紙包をうらう。開け  
ば。兩衣一ツと。漢帛やうの物のこり。し。その主が。おれよすがごもな。紙書  
物やめれとて。うら返しくとれ。紙の向ふ一枚の文書のり足す。うら荒川  
嘉二郎が奴隷め八へら。し。これ手取め。今度兼七ん殺す。秋布が書筒  
。奪ひとりく。ふ。さ。さ。の賞禄とよん。又瀬川博多。不白滅に。し。  
秋布が奪ひに。至。い。と。如此と。は賞禄せん。と書たり。け。且。兼七ん。は。驚

や。こ。ろ。の。中。に。さ。ま。う。それお傷はけとれ。のは海賊の。と。り。い。お。こ。ろ。  
嘉二郎が奴隷めて。の。り。さ。か。れ。ハ。う。の。う。う。ふ。ん。主。家。に。大。事。お。ま。わ。ぬ。と。い  
頻りに安か。紙ど。は。も。な。れ。お。り。し。て。彼。の。紙。を。巻。し。主人。が。又。う。り。て  
い。さ。う。この紙包。と。う。物。な。れ。ど。は。く。く。縁。故。と。考。れ。お。い。が。行。暴。の。彼  
夜。う。り。盗。賊。が。奪。ひ。と。ろ。と。又。驚。お。違。ふ。と。れ。う。は。も。ま。く。は。その。の。が。み  
か。脊。負。た。え。を。い。れ。ま。し。て。水。中。へ。破。と。し。行。お。紙。包。も。浦。も。も。底。の  
水。屑。と。や。る。り。け。ん。今。の。違。ふ。日。と。預。と。れ。バ。舊。の。水。底。お。の。れ。へ。う。紙。包。を。う  
ら。う。の。い。が。物。も。め。だ。い。ん。より。預。り。て。ゆ。く。な。れ。ハ。き。ひ。て。の。面。を。う。所。あ。こ。と  
い。ふ。主人。か。り。く。と。う。ら。ま。ひ。ま。う。ば。その。紙。包。の。盗。賊。が。紙。包。を。と。た。れ。と。の。お  
こ。と。い。ふ。今。度。の。厄。難。あ。く。く。の。物。と。捨。ま。へ。も。余。り。拾。ひ。ま。し。ら。ば。これ。お。り。の。傍  
侍。は。し。立。廻。り。て。縁。由。を。き。き。ま。す。その。ま。も。い。う。と。う。恨。ま。ぬ。と。い。ひ。付。り。た。せ。に

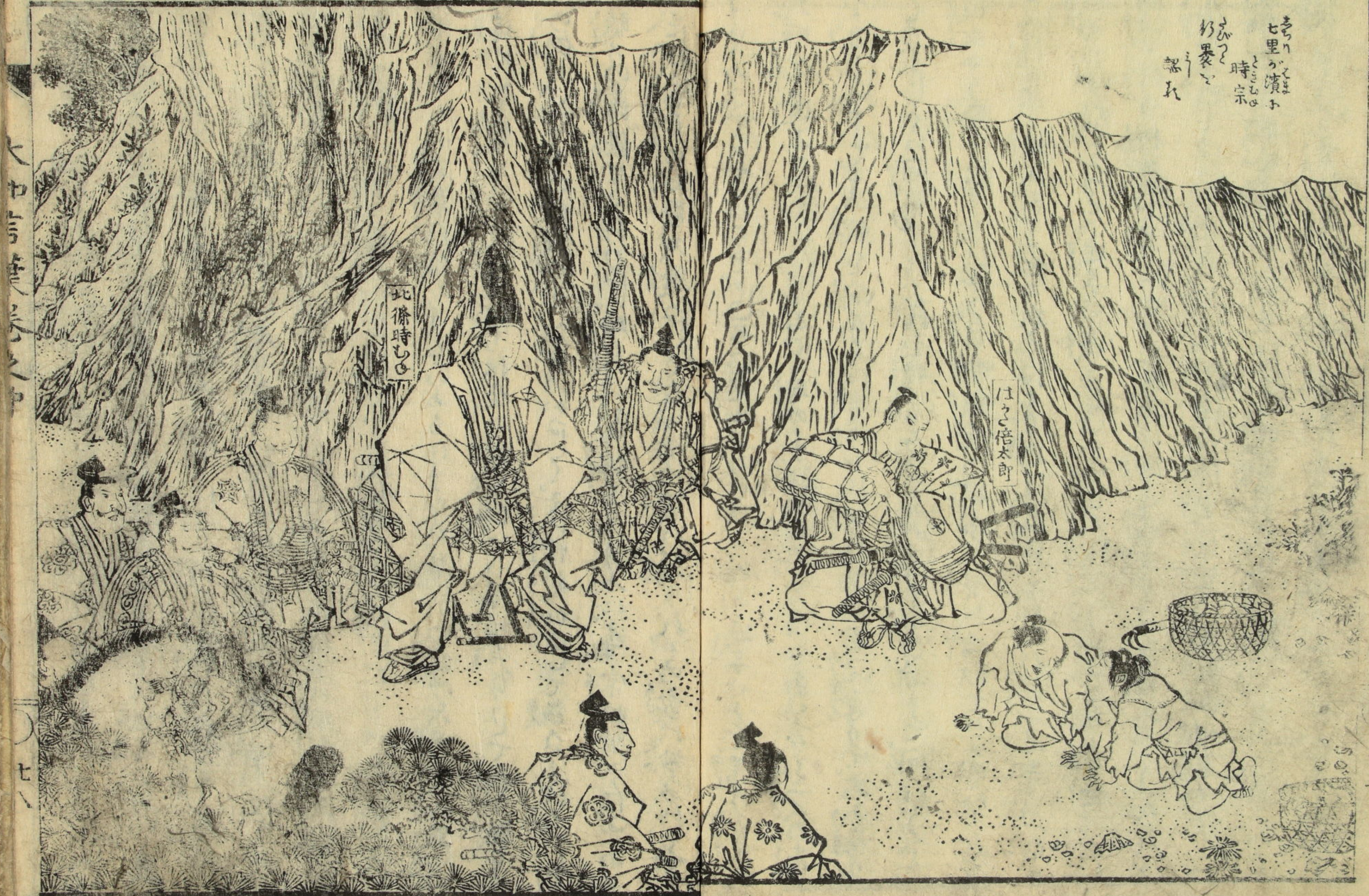
外面へ出小多。こゝに于て養七。又一層の功勞とはしてぬ。びるひのうら  
ふ。これ今錦と書筒が失ひての往ても還りてもしひは。あつあれど。今こゝ  
も嘉二郎が政をひく。主君の大事次をうへ。一日も躊躇をせじ。金瘡全  
愈せども。ほつ鎌倉へまがりて。主君へとの形をやせませう。又西國へ  
行く。婿君へや告げんとて。とほかうとほまひ煩ふ。経小瘰にぬくひ壞く。若  
痛はじめに涙はしけれ。又いさげらに日とほぬ。

第八

錦繡の和歌邊將成

今茲も既ふ暮く。あふなまれ春まかり。鎌倉あは。執持時宗朝臣太宰の  
経高殊伐の祈念として。博多倍太郎以下の近臣が。俱。榎嶋轉敗天へ  
糸結ゆつ。七里が濱とゆり。島まゝに海士の子どもうと。ええ。年の経十二  
二方なれ男の童二人。袖紙小褌。これ行褌とおぼし。れりの衣引のひぼ。あ

まりのよいまおのれと。はじめにえおなれば。こゝへ通させとて。罵り争ふ。  
時宗遠ふえと。あして。志じ馬の手綱。或博多倍太郎をりて。二人の童  
を近く呼して。その故を問ふ。に童どもは。執持ありと。ええ。りて。大お畏り。  
ええ。しく。回答。これ。時宗まぐら。叮嚀おし。論して。同たりと。  
彼ホ。ややくに。もうひ。今。彼首の磯。あて。見。拾ひて。み。そ。か。り。も  
この行褌。浪。打。よ。せ。られ。は。より。近。う。ま。じ。を。お。の。れ。先。ふ。え。牛。後。後。ま  
取。の。け。と。れ。の。こ。ろ。こ。へ。通。させ。通。させ。して。し。ひ。争。ひ。と。れ。よ。て。ん。と。や。せ。う。は。  
時宗件の行褌を。召はして。え。あ。あ。に。細。き。麻。糸。う。て。織。模。ふ。か。り。た。れ。が。  
小。た。木。れ。と。つ。り。て。肥。前。團。矢。田。津。の。陣。中。東。軍。の。軍。監。頼。川。采。女。ぬ。へ。  
寄。奉。れ。拙。婦。秋。布。と。り。け。し。る。時。宗。か。て。この行褌。博。多。倍。郎。の。許。お  
預。り。て。童。に。宣。ふ。や。途。小。遣。され。の。なり。と。お。れ。の。お。の。れ。お。の。れ。お。の。れ。



きりかほ  
七里が濱  
時宗  
お累  
認め

北條時宗

はる倍太郎

北條時宗

北條時宗

七

拾ひて、物とすれど罪いとふし、汝水と童なれば、口はすへどもぬれぬ。  
 この後もかゝるものは、村長おせよ、彼行褻と。その主の姓名を記して、ぬ  
 る。さうさう返すは、いしてへ、ふの許さにて、行ねと仰され、童もい  
 畏く、嵐の遊ばごとくに走りまゐりぬ。かくて時宗朝臣ハ館小舟か、なまふと  
 かくて博多倍太郎、行褻ハ解ゆして、えらふに、内ハ秋布が夫へ贈れ  
 書簡、封と錦一卷ありたり。潮垂れを、あづる乾じて、まづその書簡を  
 讀し、あふ文章、雅なるといふも、いふなり。離別の悲み、疾く山雞、  
 遠くして、鏡と分の恨を記し、独居の懶を、舒てハ蝙蝠、声ありして、扇小題、  
 の例、及り。その辞、悽惋として、あはしく、その情、親切にして、艶あふは、これハ  
 聴の、落涙せ、おほいし。時宗又ハ、の錦を、えらふに、尋常ハ織、は、あふ、  
 にして、百首の和歌ハ、織、は、し、く、な、が、その斐の巧なれ、その奇れ、妙なれ、ま  
 人の及、されと、さ、な、れ、が、時宗頻ハ、感、公、の、う、博多倍太郎に、直ひ、け、れ、ハ、  
 ひ、じ、異域唐の會昌年中に、邊將張、強、が、妻の侯氏ハ、夫ハ、任、あ、ふ、こ、の、  
 久、糸を、數、れ、回、文を、繕、て、電、形の、詩、ハ、化、了。又、晋の、竇、滔、ハ、妻、意、若、蘭、  
 也。文、旋、圖の、詩と、錦、ハ、織、入、と、夫ハ、秦、州、ハ、あ、れ、お、贈、と、り。今、の、秋、布、  
 ハ、が、邦の、若、蘭、侯、氏、と、い、ふ、渠、吉、次、ハ、齊、眉、と、し、僅、ま、七、日、忽、地、ハ、別、且、  
 とも、夫ハ、生、死の、場、に、あり。再、會の、量、が、た、悲、む、こ、と、い、と、不、俊、と、中、  
 吉、次、と、召、う、て、秋、布、が、う、海、を、安、ん、ど、お、さ、せ、ん、あ、ふ、と、宣、ハ、倍、太、郎、答、ま、り、  
 け、や、う。仁、君、上、ふ、在、と、彼、ホ、ク、お、し、て、ハ、其、大の、恩、惠、不、思、議の、僥、倖、な、り、  
 あ、う、れ、も、こ、の、ゆ、に、よ、う、と、吉、次、と、召、環、と、仰、ま、バ、秋、布、ハ、父、孫、四、訂、ハ、恩、愛、  
 小、溺、と、す。忠、義を、缺、け、の、ふ、あ、ら、ぬ、ハ、世の、識、を、あ、り、ハ、誓、の、こ、ろ、と、免、れ、  
 て、固、辞、ま、う、ひ、べ、た、能、又、秋、布、も、貞、操、あ、れ、女、子、な、れ、ハ、却、公、ら、く、ま、い、は、じ、

て、固辞まうひべた能、又秋布も貞操あれ女子なれば却公らくまはいはじ

はしや彼親子のその固辞中さびども。吉次りその妻の恋慕ふよして石  
 かりとありけり。いづてか阿容くくと立降りゆべ。帰るとたの世の胡塵  
 となり。ゆきまの君の命に違つらむと忘れ忍地不討死しとてうりやのえ  
 世言小公のつと花を栽れハ花法を意あししと抑々挿をよく蔭しし  
 こころり。得と賢慮めめづし多しと憚れ氣色もひくまうせし。時宗  
 朝臣かみて宣ふやう汝がキヌと名甚理りに都へり。あふわれ東軍數千騎  
 の中より吉次只一人が居くとは。九牛が一毛なり。一將をばさしといふも。眞政乃  
 軍配ふ干す。おほつうなれ所は。且秋布ハつる母の愛するのにおほつうある  
 小彼女子哀慕よ堪じして世次去れこともあはば。はこそ不便おほ。らめ  
 時宗の母とていもれも。秋布が夫とていも。恩愛あへく異なれ。は。怒ふ  
 明白ふいひちしてこそ。は。即秋布も因辭し。吉次もゆへ人のよき妻おも

舅おもあつせして。猛に吉次が存く。ん。彼又何の故ともあふ。びと。違背せん  
 中々の使と委んりの。汝もぞ外おほ。と。た。彼地お熱た。吉次が  
 ねく。あれしと仰すれ。小。倍太郎不覺に感涙を押し。貞婦忠臣の下お  
 妙。賢君上小在さ。故あり。寔お彼お。よ。月日の下にせれ。か。お。わ  
 かに仁愛と慕りも。れよ。と。りして。異議も。領掌も。り。し。時宗や。く。  
 件の錦と直垂は。進して。秋布の書簡と共。小。倍太郎に。授。汝。彼。地。不。至。る。は。  
 この直垂ハ吉次に。授。く。命と。侍。人。又。書。簡。ハ。假。初。より。て。身。じ。お。り。し。  
 て。と。ひ。ひ。せ。よ。あ。は。吉。次。卿。も。疑。は。し。て。汝。と。も。に。ゆ。り。も。つ。た。な。り。と。室  
 下。倍。太。郎。兼。く。件。の。二。品。受。く。も。了。俄。頃。は。行。装。を。敷。き。從。者。へ。い。と  
 中。の。日。鎌。倉。と。起。行。し。馬。の。匹。を。西。向。夜。次。日。に。送。り。馳。り。り。り。り。り。  
 り。世。小。披。家。の。り。し。る。瀬。川。博。多。が。家。に。告。げ。り。の。も。あ。ふ。は。秋。布。ハ。春。あ。り



ても養七の海のりの身をどればらしうとらぬりときひく。寝食をならずに病をからしめて日をおくれと俊平もらの故よを痛め父の誼に即ち見ぬ鶴岡の八幡官へ希詣て鷹の羽に征矢二條は願書が添く奉納し賊徒連五珠伏と吉次を恙なく凱陣あらせと祈りぬ。げふや武大の中にけふも子に引ひとけはふようもおりぬさし。されば神の誠を人を守りとも宿因の袖と故ひ多のに由りた也や。との願書より事起りて誼に即ち身を喪ふと後あらせひあらせりた。

淡路守 伊藤 俊 前

松浦佐用 媛石 兼 前



